

目 次

	(頁)
1. 同窓会の変化について	1
支部長 清水 義一 (昭和31年卒)	
2. 第43回東山会関西支部総会講演概要 (平成17年11月5日)	2
テーマ「全学同窓会活動について」	
講演者 笥 哲男氏 (工学部応用化学科S33年卒)	
〔名古屋大学全学同窓会関西支部長 三洋化成工業株式会社代表取締役会長〕	
3. 会員訪問	7
重粒子線によるがん治療の普及に向けて	
放射線医学総合研究所 藤田 敬氏 (昭和59年卒) を訪問	
幹事 和田 滋憲 (昭和43年卒)	
4. 会員寄稿	10
苟日新 (まことに日に新たなり)	
安田 幸伸 (昭和39年卒)	
5. 平成17年度支部総会報告	11
幹事 和田 滋憲 (昭和43年卒)	
6. 同好会報告	13
(1) 「囲碁の集い」報告	
囲碁担当幹事 古澤 裕 (昭和32年卒)	
(2) ゴルフ同好会報告	
ゴルフ担当幹事 野崎 利雄 (昭和29年卒)	
7. 平成17年度東山会関西支部会計並びに監査報告	15
会計幹事 山田 晃 (昭和33年卒)	
会計監査 野崎 利雄 (昭和29年卒)	
8. 編集後記	16
9. 平成18年度 東山会関西支部役員名簿	17

1. 同窓会の変化について



支部長 清水 義一（昭和31年卒）

国立大学法人化に合わせて名古屋大学の全学同窓会の活動が活発に行われ、関東支部、遠州支部、関西支部と設立され、加えて海外にも支部が設立されつつあります。又全学同窓会行事の一環としてHOME COMING DAYが昨年からは大学、全学同窓会共催の形で開催されるようになり、各支部でも総会、フォーラムがスタートしております。こうした機会には総長自ら出席されることが多く大学側の力の入れ様は一通りではないように思います。産・学・官・一般社会連携に対する一翼を担うべく、全学同窓会に期待する大学側の熱い思いが伝わってきます。

一方、今までの経過を見ますと、各学部学科をベースとする旧来の同窓会がバック・アップしているのですが、考え方の違いや活動の不慣れがあるのが実情です。関西支部立ち上げに際しても、キタン会（経済）、双葉会（電気）、共晶会（金属、材料）、応化会、東山会、土木、農業、法学関係のOBの方々が協力された経緯があります。東山会関西支部の活動も昭和卒OBの親睦を主として続けてきました。しかもキタン会とか双葉会のような他の学部、他の学科のOBとの交流は今まで全くありませんでした。

今回大学側主導でこのような形で横の連携を取りながら全学同窓会関西支部を通じて全学同窓会を盛り上げていくことになっております。すでに全学同窓会の行事に参加された方は豊田会長、平野総長はじめ他の学部、学科卒OBの話を聞く機会に接しておられると思いますが、今までにない展開になっております。

昨年の第43回東山会関西支部総会には全学同窓会関西支部長に参加して頂きお話をして頂きました。関東では全学同窓会の関東支部の活動が活発な反面、東山会の関東支部が無い状態を解消しようと開設を進めています。今年の東山会総会では例年になく関西支部からのメッセージを要請されました。自主経営を目ざす大学が今後色々な模索をし、同窓会との連携に活路を求める局面も無きにしも非ずと思われれます。こうした背景のもとで東山会関西支部活動も親睦を通じてお互いの横の連携を計りながら活動の展開を継続していきますので宜しくご協力をお願いします。

2. 第 43 回東山会関西支部総会講演概要 (H17 年 11 月 5 日)

テーマ : 「全学同窓会活動について」

講演者 笥 哲男氏 (工学部応用化学科 S 33 年卒)

名古屋大学全学同窓会関西支部長
三洋化成工業株式会社代表取締役会長

ご紹介いただきました笥でございます。今日は第 43 回目の東山会関西支部総会にお招きいただきまして本当に有難うございます。私は応用化学出身ですが、応化会関西支部というのがあって結構元気にやっているのですが、なかなか東山会関西支部さんの 43 回の歴史には追いつきません。また、昨年 (H16 年) 11 月には名古屋大学全学同窓会関西支部のフォーラムに大勢の皆様方にご参加いただきまして本当に有難うございました。お礼申し上げます。

私は今、三洋化成に勤めていますが出身は岐阜県の郡上八幡で、郡上高校を出まして名大工学部応用化学に入りました。そして学部卒業と同時に京都の三洋油脂というところに入社いたしました。当時 150 人くらいの小さい会社でした。以来ずっとそこに勤めております。あとで何を作っているかを簡単にご紹介いたします。今、従業員は 1500 人ちょっとで売上が今年 1000 億になるかなという規模です。製品は化学品で我々はパフォーマンスケミカルといっていますが、水を吸うとか、何かを上手く混ぜるようにするなど化学品で機能をお客様にお届けする商品を作っています。

今日は名古屋大学の「全学同窓会活動について」ということでお話しさせていただきます。この (H17 年) 10 月、名古屋大学でホームカミングデイと言うのが行われまして、全学同窓会の代表幹事の伊藤先生が全学同窓会がどういう活動をしてきたかをお話しされました。それをもとにご説明をさせていただきます。ホームカミングデイはアメリカの大学ではよく行われていますが、年 1 回卒業生が集まって皆で何か楽しくやりましょうというものです。名大では今年初めて行われたものですが (あとで写真で紹介いたしますが) それほど賑やかではなかったのではないかと思います。卒業生はあまりお見えになりませんで、聞きますと 800 人くらいで学生が多く、OB の出足が少し悪かったようです。全学同窓

会は平成 14 年 10 月に豊田章一郎さんを会長に設立されました。大学が法人化され、いよいよ自立してやっていかなければならない。そこで大学としては社会との連携強化がより重要になりますが情報発信とか、特に産官学の連携、今流行の説明責任などがここでは大事になります。そういう意味では卒業生、修了生の大学との関係、特に大学への支援が必要だということになるわけです。卒業生などがどんな活躍をしているか、ウオッチャーが沢山いて大学をちゃんと評価すれば名古屋大学のプレゼンスが上ってくることになります。大学の方でも卒業生・修了生をもっと大事にするというようなことから従来の同窓会とは違ったタイプの組織が要るということで、大学と社会を結ぶための全学同窓会という組織が作られたということです。従来、大学には皆様方の東山会、応化会とか工学部には殆どの各学科に同窓会があります。学部全体の部局同窓会のもとに学科の同窓会があったということです。全学同窓会というのは同窓生、部局の長、大学、地域社会・国際社会と連携をとって社会へ情報公開し、社会のニーズも集めてもっと密接な関係を作っていこうということです。

では、全学同窓会は何をするのかということですが、私は同窓会という言葉がもうひとつぴたりしない会ではないかと思っています。どちらかと言えば後援会、大学を支援する支援会というものではないかと思っています。伊藤先生がホームカミングデーで平成 16 年度から現在までの活動報告をなされましたが、これは実際に全学同窓会がやっていることでした。

一つは名簿作りですが同窓会の電子名簿を作っている。これは個人情報公開に問題がありましてどうやって今後キープして使っていくかがいろいろ議論されています。二番目は財政基盤整備で支援会員制度というのを作っていますが、支援会費を皆さんからご協力いただくことをやっています。寄付の依頼、(学生の)保護者からの活動協力金の依頼をしています。第三に活動拠点の構築。平成 14 年に全学同窓会本部が出来ましたが、15 年に関東支部が出来ました。16 年には以前から静岡県にあった遠州会という同窓会を引き継いで発足、我々の関西支部は昨年(平成 16 年)11 月に発足しました。今は海外支部を立ち上げています。第四に学生の支援ですが寄付講義だとか就職支援事業、クラブ活動などにも一部資金を出して後援しているということです。第五に大学の支援及び共同事業ということで、産学連携事業としては関西フォーラムが昨年 11 月に、東京フォーラムは今年の 4 月に行われ、もう一度来年(平成 18 年)春行われることになります。ここでは大学の技術をご紹介して産学連携の糸口としていくということです。また、シンポジウム、フォーラムを実施しています。この他大学支援事業があり具体的には伺っていませんが実施が 8 件、300 万円のようなようです。今月(H17 年)11 月には上海フォーラムを実施されるということです。六番目は広報活動です。

皆さんのお手元にいろいろお送りさせていただいている全学同窓会のお知らせとお願い、それとホームページの充実やニュースレターの発行などです。

次に現在、全学同窓会は海外支部の立ち上げを一生懸命やっておられまして、ニュースレターには韓国と中国の立ち上げの記事が載っています。この11月17日に上海支部が、バングラディッシュはホームカミングデイの日に支部が作られました。タイは12月14日に設立総会がなされます。いずれも平野総長が参加されます。最近各国に名古屋大学の卒業生がおられますが大学の先生をされている方が結構おられ、そのような方々が中心になり卒業生や現地の日本人の名大卒業生などが集まって現地支部を作るといふ動きになっています。最近韓国、バングラディッシュなどで支部旗を作っているところもあります。なかなか立派なものです。私は「関西支部にはこれ無いんじゃない、どうなっているんだ」と言っているんですが。実は平成16年度の支援会員は1746名でしたが、現在は17年度の支援会員の募集中で1111人ということです。法人の支援の方も会員数が昨年9法人、今年は6法人です。支援金額は昨年は1266万円でしたが、今年は半分ちょっとということでもう少し皆様方のご協力を頂戴したいということでございます。以上がホームカミングデイの時にお話しがあったことです。

このように全学同窓会としてはまだ緒についたばかりですが、特に関西支部としては現在こういう事業をやろうかということとは全然ありませんで、本部のいろんな行事にできるだけ参加するような体制で協力していこうということでございます。一つお願いですが、遅ればせながら来年（平成18年）2月18日に大阪で関西支部の初めての総会を行いますので是非ご参加をお願いいたします。

（以下、ホームカミングデイで撮影した大学関係の写真の紹介とともに）

ホームカミングデイで名大に行った際、写真撮影をしましたがご説明方々、気づいたこととお話しします。

豊田講堂も大分古くなりまして講演の音が響いてなかなかうまく聞けない、音響効果が悪いのですね。こんなぼろい講堂はなんだと思ってちょっと申し上げたら、今トヨタさんをお願いして改修計画を進められているようで、どうやら実現しそうな状況のようです。

私たち卒業生が名古屋大学に行ってもなかなか行くところがないんですね。最近見つけたのが一つは広報プラザです。豊田講堂の南に隣接しています。ここでは卒業生が行けば茶の一杯ぐらいいは出してもらえます。いろんな出版物を見せてもらえますのでまずお茶を所望し一服されてはと。私も随分何回も大学へ行きましたが同級生が教授で残っていた時代は良かったのですが、卒業してしまいますとなかなか行くところがなくしばらく遠のいていたのですが。広報プラザ

が大学にあるのを見つけまして今はこちらの職員の方が（支部長で行くこともございまして）丁寧な応接をしていただきまして助かっています。今、名古屋大学へ行って気楽に見れるのは名古屋大学博物館（旧古川図書館）です。なかなか面白いですし、皆様方も機会があれば是非名古屋へお寄りになってちょっと大学を覗いていただいて博物館へ入り、隣の広報プラザでお茶飲んで、もしご自分のお知り合いの先生方がどこかの研究室に居られたらそこへ寄って帰るというようにしていただけたら大学も賑わってよいのではないかと思います。博物館は昔、古川図書館という建物でしたが、今は図書館が別にできましてここは古川記念博物館という名前になっています。ここでは固定的な展示もありますが、特別展というイベント的なものもやっておられまして、なるほどという新しい発見があるかと思っています。私が行ったときには奈良坂源一郎という医学部のご出身の方が作られた虫魚図譜を展示していました。名古屋にからんだいろんな古い業績など新しい発見が出来、結構面白く展示しています。大学へ行ってもそういう意味では面白い。地下鉄の駅が出来て便利になりました。皆さんも東山界限は多少はご記憶になっておられると思いますので、一度是非お出かけになって一服していただけたらと思います。

今回のホームカミングデイでは名大の学生さんで全国のダンス競技会で優勝された方が模範演技をやっておられました。結構派手な格好して、さすがに優勝なさる学生さんだけあってお上手でした。また、大学で物品販売をやっていました。農学部の農産物の販売やちょっとしたグッズの即売ですね。この総会の最後はトヨタの前副社長で現在はデンソーの副会長の齋藤さんがF-1の話なさいました。そのときのF-1車の展示がありました。F-1の話はなかなか面白くて、トヨタもやっと一線に近づきかけているが、まだまだ世界の列強とは差があるということでした。しかし参加にはいろんな利点があってこれからもしかりやっていきたいと言っておられました。

こんなことで全学同窓会についてはとりとめの無いお話しをし恐縮ですが、皆様方にも何らかの形でご協力をお願いしたいと思います。大学側はやはり産学連携をもっと進めるべくP L Oの組織もありますし、特許関連部署も出来たりしてはいますが、我々企業側の立場としてはなかなか食らいつくということは難しくどうやっていけば良いかと思っています。私どもの三洋化成のケースですとやはり関西の大学との関係が深いものですから、全く新しい試みですが京都大学にローカルな新しい建物を一棟寄付し、我々の研究所の研究室を作って研究員を数名送り込み隣の大学の先生方からご協力、ご指導を得ながら数年間研究をやってみるという産学連携を始めました。京都の会社ですと名古屋大学は少し遠くございまして、なかなか良い機会が見つかりません。現在は大学の方に（正確な名前は

忘れましたが、) 創造工学実験講座という実業を学んでいただく講座がありまして、私どもの方ではこれで4年間ぐらい引き受けましたが、これからご紹介します私どもの製品の研究を一部学生さんにやっていただくようなことをしています。

[以下、三洋化成(株)の主要製品2種と機材を持ち込まれ、①高吸収性樹脂(紙おむつなどに利用:三洋化成が世界最初に発明)②硬質ウレタン樹脂(洗濯機や冷凍船などの断熱材、自動車のパネルに利用)について簡単な実験を行い紹介された。]

大変雑駁な話でしたが時間が来たようですのでこれで終わります。ご清聴有難うございました。



講演中の全学同窓会関西支部長 筧 哲男氏

3. 会員訪問

重粒子線によるがん治療の普及に向けて

放射線医学総合研究所 藤田 敬氏（昭和 59 年卒）を訪問

幹事 和田 滋憲（昭和 43 年卒）



+++++

+++++

昨年、本誌に寄稿された藤田敬さん（S59 年卒）を是非“会員訪問”して欲しいとの関西支部内の声を受け、藤田さんも快諾されたので昨年に続き若い世代の方への会員訪問となった。6月中旬、都合よく藤田さんが神戸に帰られたタイミングに私はJR神戸駅近くのホテルでお会いできた。サッカーに青春の情熱をかけた明るい好青年という印象であった。

藤田さんは神戸市出身で名大卒業後、いわゆるUターンで三菱電機神戸製作所（当時、以下 三菱神戸）に就職され、自動車のエンジン、トランスミッションなどの試験装置の工作部門で技術スタッフの業務に就かっていた。三菱神戸は千葉市にある独立行政法人 放射線医学総合研究所（以下 放医研）の重粒子線がん治療装置に組み込まれる加速器を製作・納入した。その縁もあろうと思われるが、藤田さんは放医研の民間交流の一環でH15年、放医研に出向された。40歳代半ばで仕事人としてはピークに達していると思われる時期、藤田さんの表現を借りると“慣れ親しんだ「重厚長大の最たる」事業所での仕事”を離れ、全く畑の違う放医研で全く新たな仕事に就かっている。

+++++

+++++

放医研は被曝などの放射線の影響を解明、抑止するとともにその医学利用を推進するためS32年、国立研究所として千葉市に設立された。現在では重粒子線（炭素イオン線）を高速照射し、がん治療を行う研究も重要な部分を占めている。放医研での臨床治療の成果をもとに、重粒子線がん治療は2003年厚労省の高度先進医療の承認を受け研究段階から普及段階に入ってきた。藤田さんは放医研の企画部に所属され、所轄官庁である文科省との予算折衝は重要な業務である。また、重粒子医科学センターの重粒子線がん治療普及推進室にも兼務し、普及に向けた取組なども行っておられる。インタビューの後半であったが、藤田さんの現在の仕事への思いの一端を知ることができた。

—放医研で94年から始めている臨床治療の担当医師の方などと一緒に話をし、実績なんかを見ると重粒子線による治療効果が大きいことが分かります。従来の放射線によるがん治療では限界があるんです。骨肉腫とかは放射線抵抗性があってだめなんです。重粒子線ではその点効果が大きく切らなくて治療できる。骨盤の肉腫なんかに罹って他の治療法ではだめだという十代の若者が治療に来て、そういう子が（派手なジャンプではないんですが）もうジャンプもできて10年くらい何とも無いのを目の当たりにすると感動です。寝たきりではなく社会復帰が本当に出来るんですね。社会復帰可能かどうかは医療のとても重要なことだと思います。重粒子線治療の普及のためにも頑張りたいなっていう気になります。

重粒子線によるがん治療は約10年の研究段階を経て治療の有効性が確認され、いよいよ普及の段階に差しかかっている。重粒子線による治療の特徴については当稿目的から外れるので記載はしないが、手術を伴わず痛みもないようである。したがって高齢者で手術が出来ない患者には非常に都合が良い。現在、千葉県（放医研）、兵庫県に重粒子線がん治療装置が設置されているが、普及のためには装置の大きさや装置そのものの設備費用を下げる必要があると、H16年からの2年間で放医研にて小型化の開発が行われた。今後、人材の育成が急務と思われる。

—放医研の重粒子線がん治療装置（治療室は3室）はサッカー場（120m×60m）くらいの大きさなんですよ。普及のためにはこれを体育館程度の大きさ、つまり価格、面積規模ともに3分の1くらいにしなければならないとの目標で研究開発されたんです。

装置の平面的大きさをサッカー場の大きさにたとえる藤田さんのサッカーへの思いも強い。インタビューの冒頭にスポーツについて尋ねてみた。冒頭にも述べたが、今の藤田さんの健康的な明るさは青春の余暇を一途にサッカーに打ち込んだことから来るものだと感じた。

—小・中学校は野球をやっていました。バッティングはある程度のところまで

いったんですが、振りぬいてコンスタントに打つには天性のものが必要と痛感しやめました。サッカーは好きだったんですが近くにクラブが無いので、高校からサッカーをやろうと思ったんです。出身高校の（神戸市）長田高校は自分が入学した年に高校総体兵庫代表となりました。その後レギュラーになってセンターバックをやっていました。それからサッカーにとりつかれて・・・。

名大では（学部の勉強もしっかりする必要もあり）本ちゃんのクラブはしんどいだろうなと思ってサッカー同好会に入って修士課程の卒業まで愛知県の社会人リーグで頑張ったんです。入学の時、名大は愛知県の社会人リーグの3部にいたんですがLブロックから出発し、年ごとに1ブロックずつ上がっていき、卒業の年に一気に3部のCブロックに上がりました。

重粒子線でのがん治療の話の中で藤田さんの人への思いやり、心の優しさに触れた部分があった。

—私が放医研に出向する直前に神戸でサッカーをやっていた先輩が骨盤廻りの手術をやったんです。神戸の病院で・・・もっと早く出向して重粒子線治療の情報を知っていたらととても残念です。出向して重粒子線治療を知ったので連絡を取り合ったのですが、すでにエックス線の照射を大量に受けていたので・・・重粒子線は2重にかけられないんです。今は歩けてはいるんですが重粒子線ではもっと上手くいったかもしれません。

神戸は大震災を受けた都市。藤田さんがお住まいの長田区はその中でも最も被害の大きな地域だった。地震発生前だが比較的際どい経験もされた。

—震災の年は正月に一家で家内の里の（愛知県）春日井へ里帰りして一旦自分だけ神戸に戻り、再び13日に迎えに行き16日に一家で帰ってきたんですが、地震の12時間前に国道43号線上の地震でずっこけた阪神高速を走っていたんです。際どいところでしたね。

人の運命は紙一重で大きく変化することが多々ある。出向という限られた時間をバックに、重粒子線治療の普及を自らの使命と認識し頑張っておられる藤田さんにエールを送りレポートを終えたい。

藤田さん、ありがとうございました。

4. 会員寄稿

苟日新（まことに日に新たなり）

安田 幸伸（昭和39年卒）



七、八年前、工場展開をしていました中国中原の安陽市を訪問する機会がありました。安陽市は、上海から国内線で二時間の鄭州から、高速道路で黄河を越え約三時間、黄河沿いに位置しています。

実は、それ以前にも技術援助、合弁事業の協議でたびたび、中国へ出張していました。政府関係者、地方都市の首長との会食の折、お互いの話題の一つにでも「十八史略」に目を通して出かける事にしていました。この本は、中国四千年の歴史が簡略に記載されていますので、古代王朝の変遷、及び日本に今でも生き続けている風俗習慣、等々があらわされていますので、酒席の話題には不自由しません。

特に、四千年の歴史、文化発祥の街、殷（商）時代の都であった安陽市郊外の殷墟には特別な興味と関心があり、一度、自分自身の目で確認したいと思っていました。

四千年前、先の夏王朝（中国最古の王朝で伝説の国とも、実在したともいわれている。）の最後の王の暴政を改めるべく、有力部族の成湯が立ち、夏王朝を滅ぼし高い理想をもって商（殷）という国を興し、初代湯王となった。“夏”にも、暴れる龍（黄河）の治水事業に尽力した立派な為政者や聖君子といわれた聡明な為政者もいたけれども、結果として国が滅びてしまう。やはり上の立つものの志が明確で、使命感がないと、という反省から湯王は、毎日必ず使用する手水鉢の底に「苟日新、日々新、又日新」と刻み毎回見て、自らの治世に自問自答していたといわれています。殷代中期までは、初代王の崇高な理念が徹底され、精巧に細工された四、五百キロもの青銅器、あるいは酒器、食器等の小さな青銅器、文字の原形である亀の甲や動物の骨に刻まれた甲骨文字、薄衣の衣類等、文化、技術の信じられない程の高度な発展に驚きました。

しかしながら、これ程の栄耀栄華を極め国力を誇っていた“殷”も半世紀も経過すると“夏”と同様、最後の王の暴政によって“周”に滅ぼされ、都は火をかけられまる焼けになってしまった。

生成発展の永続が如何に困難であるか、また、永続性が維持できても、その成功によって復讐されてしまうことが実証されているのが歴史で、私達に共感を呼びかけているのでは。

私も現役を離れて三年、自分自身のために常に向上心を忘れず「苟日新、日々新、又日新」を実践していきたいと思っています。

5. 平成17年度東山会関西支部総会報告

幹事 和田 滋憲（昭和43年卒）

第43回となる関西支部総会は、平成17年11月5日（土）〔15時～17時〕中央電気倶楽部で開催されました。

参加者は会員22名のほか名大からご来賓として三洋化成（株）会長 笥哲男氏（応化 S33 卒）、名大大学院教授の長谷川豊教授をお迎えし、次の通り行われました。

- ①講演会 15時～16時40分（司会：荻原幹事 S43 卒）
- ②総会 16時40分～17時（同：青山副支部長 S32 卒）
- ③懇親会 17時20分～19時20分（同：荻原幹事 S43 卒）

以下その各概要を記載します。

1. 講演会

(1) テーマ：大学の近況について

講演者：長谷川 豊氏〔名古屋大学エコトピア科学研究所・エネルギー化学研究部門教授（S57 卒）〕

講演概要：

- ・ 東山キャンパス内工学部棟の現状
- ・ 大学法人化後の研究体制、工学研究科教育体制等
- ・ 赤崎記念研究センターの設立
- ・ 機械工学と他分野の融合研究状況 など

(2) テーマ：全学同窓会活動について

講演者：笥 哲男氏〔名古屋大学全学同窓会関西支部支部長（S33 応化卒）、三洋化成工業株式会社代表取締役会長〕

講演内容：別掲

（当講演の概要は当支部報の2. をご覧ください。）

2. 総会

(1) 支部長挨拶 清水支部長(S31 卒)

- ・ 長谷川教授、参加者へのお礼
- ・ 笥全学同窓会関西支部長への講演へのお礼
- ・ 全学同窓会の設立で開かれた名大の縦・横の関係の強化を期待、また、東山会関西支部の活動活性化の機会が出ることを期待
- ・ 今後の支部活動へのご協力をよろしく願います

- (2) 東山会本部代表挨拶 長谷川教授 (東山会本部理事 S57 卒)
- ・ 東山会の構造改革、特に経済的な改革を実施中
 - 本部の財政は破綻を免れた
 - 会報はHPで、希望者には実費負担で郵送も (次期総会で提議)
 - ・ 関西支部の活発な活動を本部に伝え、学科の同窓会活動のあり方を考えたい
- (3) 会計報告 山田幹事 (S33 卒)
- ・ 会計報告別紙参照
 - ・ 年会費の納入者が漸減
 - ・ 会報は本部HPへ掲載、今年度から印刷物希望者には会費納入者へは送付
この結果経費節減 (4万円) が出来た
 - ・ 白木前支部長からのご寄付の紹介
- (6) 会計監査報告 野崎幹事 (S29 卒)
- ・ 監査としてのチェックポイント①不要な支出②収支の適正性③繰越金の適正性
 - ・ 適正な会計との監査結果報告→総会承認された
- (7) 一般報告 深谷幹事 (副支部長 S34 卒)
- ・ H17 年度支部役員会について
本部会議報告 (支部長)、総会開催の件、若手会員の総会参加対策など
 - ・ 支部便り は東山会本部HP掲載へ
 - ・ 今回の総会案内は 270 通発送、76 名は支部便り送る、194 名は案内のみ (24 通返送、例年より多い：若い人の住所変更が多い)

3. 懇親会

- ・ 参加者全員の写真撮影
- ・ 立食形式での会食懇親会を実施
- ・ この席でゴルフ同好会 (野崎幹事 S29 卒)、囲碁同窓会 (古澤幹事 S32) の結果報告があった
- ・ 参加者スピーチ
多くの参加者からスピーチをいただいた。また、西川氏 (S22 卒) にはご自慢の手品を披露され会は盛り上がった
- ・ 学生歌斉唱
- ・ 閉会の辞 青山副支部長

以上

6. 同好会報告

(1) 「囲碁の集い」報告

囲碁担当幹事 古澤 裕 (昭和32年卒)

2ヶ月毎に開催していますが、平成17年10月から平成18年6月までの開催結果は次の通りです。

開催日	参加者数	優勝者	成績	備考
H. 17. 10. 1	8	鷲田 3段	3勝1敗	
H. 17. 12. 3	5	川口初段	3勝1敗	
H. 18. 2. 4	8	荻原 2段	4勝2敗	
H. 18. 4. 1	5	川口初段	2勝2敗	
H. 18. 6. 3	6	古澤初段	4勝0敗	

参加者は 川口、松田、岩田、青山、鷲田、古澤、荻原の各氏に加え10月から深谷副支部長、2月から清水支部長が参加されています。

会場は岩田氏の計らいで中央電気倶楽部で午前10時から開催しています。尚会場利用料は¥500/人です。

ご希望の方は自由に参加下さい。一応昇段、昇級の規約は設けています。

H18-7 記 以上

(2) ゴルフ同好会の報告

ゴルフ担当幹事 野崎 利雄 (昭和29年卒)

H17年10月14日(金)、枚方国際ゴルフ倶楽部で開催。

今年は1名増え8人2組で行いました。

参加者は、西川さん(S22)、白木さん(S23)、田中さん(S28)、
野崎さん(S29)、古澤さん(S32)、山田さん(S33)、
杉本さん(S33)、和田さん(S43)

優勝はダブルペリアで古澤さんでした。(Net72.4、Gross94)

今後も奮ってご参加下さい。



7. 平成17年度東山会関西支部会計並びに監査報告

会計幹事 山田 晃 (昭和33年卒)

会計監査 野崎 利雄 (昭和29年卒)

平成17年度東山会関西支部会計報告

期間：平成16年11月6日より平成17年11月4日まで

収 入	金額(円)	支 出	金額(円)
16年11月6日の総会会費 (7000円×23人)	161,000	16年11月6日の総会費用 電気クラブ	149,268
本部祝金	50,000	写真代	60
年会費(2000円×65人)	130,000	通信費	14,265
預金利息	21	総会案内制作費	36,167
		総会案内発送費	30,341
		会議費	14,066
		コピー,事務用品	1,820
		旅費他	24,020
当年度の収入合計	341,021	当年度の支出合計	270,007
前年度からの繰越金	476,191	次年度への繰越金	547,205
合 計	817,212	合 計	817,212

以上のとおりご報告いたします。

会計幹事 山田 晃



以上の報告は適正なものと認めます。

会計監査 野崎利雄



8. 編集後記

○今年も「関西支部便り」を発行する時期が“もう来てしまった”という感じです。過ぎてしまってから時間の短さをいつも感じます。今回、安田幸伸さんに会員寄稿いただいた「苟日新（まこと日に新たなり）」を読むと、時の経過の無常さも示唆しているようにも思います。まさに“苟日新”で生きたいと思いました。安田さんありがとうございました。

○昨年の関西支部総会では名大全学同窓会関西支部長の筧様に“全学同窓会”をテーマにご講演いただきました。興味ある内容も多く少し長いのですが講演録を当支部報に掲載いたしました。なお、講演の最後に筧様の会社（三洋化成工業（株））の製品のひとつ、“高吸収性樹脂”が沢山の水を吸収することを実験で見せていただき参加者全員がびっくりしました。

○「会員訪問」には昨年につき、活躍中のユニークな若手会員を訪問しました。藤田敬さん（S59 卒）の明るく優しい人柄が強く印象的でした。

「関西支部便り」は文書による会員の交流の場です。会員の皆様のご寄稿をお待ちしています。内容や時期は問いません。よろしく願いいたします。

寄稿される方は当誌次ページに記載の関西支部幹事 和田 滋憲 へ郵送またはメールでお送りください。
